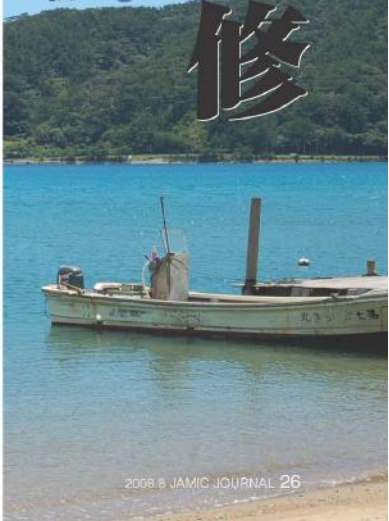


# 離島医療と医師研修

— 地域医療再生への処方箋はあるのか

第11回

千葉県立東金病院 内科医長 古垣 齊拓



## 医師確保ビジョン会議の骨子案から

全国各地の地方病院で医師不足が深刻になっている。今回はこのような危機に対して、地域医療を再生させるためにはどのような処方箋があるのか述べてみたい。2008年5月14日、厚生労働省の第8回「安心と希望の医療確保ビジョン会議」は医師不足問題の解決に向けて取り組むべき骨子案をまとめた(表1)。そのなかで、地域医療再生への重要な鍵は「地域医療連携」と「人材育成」であると筆者らは考えている(1)。

そのために、今月号では骨子案の「④医療機関の分担・ネットワークの推進」のなかの「1」地域で支える医療の推進について、次月号では「②医師の配分バランスの改善」のなかの「3」総合的な診療能力の養成

【表1】安心と希望の医師確保ビジョン会議の骨子案

<b>1 医師数について</b>
[1] 医師費増減: 医学部定員増で医師数は基本的に増やす
[2] 女性医師の離職防止・復職支援を行う
[3] 医師の勤務環境の改善
<b>2 医師の配分バランスの改善</b>
[1] 地域(バランス)について
[2] 診療科(バランス)について
[3] 総合的な診療能力の養成
<b>3 医師関係職種間の業務の分担と協働・チーム医療の推進</b>
[1] 医師と看護師、助産士、薬剤師、コメディカルとの役割分担と協働
[2] 医師・看護師と介護職・メディカルクラークとの役割分担と協働
<b>4 医療機関の分担・ネットワークの推進</b>
[1] 地域で支える医療の推進
[2] 在宅医療の推進
[3] 地域医療広域の推進
[4] 救急医療の充実と遠隔医療の推進
<b>5 医療者と患者・家族の協働の推進</b>
[1] 夜間・救急利用の適正化
[2] 医療者と患者・家族の協働の推進

とした地域医療情報化・事業で整備された。同ネットワークは、病院・診療所・調剤薬局・訪問看護ステーション・老健施設等・保健所を含めた地域全体を広く電子カルテネットワークでつなぐ全国に例をみないユニークなものである(5)。

## 緊密な地域医療連携の成果

さらに山武地域では、山武郡医師会および東金病院が中心となって定期的な糖尿病研修会を年4回行っており、08年4月まで計26回開催している。ここでは、糖尿病非専門医用の治療マニュアルであるSDMマニュアル(6)を用いて、診療所スタッフへの糖尿病治療の技術移転(内服治療、インスリン治療等)を中心に研修を行ってきた。

糖尿病に対する地域医療連携の取り組みを開始する以前の99年には、山武医療圏(推定インスリン患者1200

## 山武地域における医療の惨状と再生

筆者の勤務している千葉県立東金病院(60床)は、千葉県九十九里沿岸部の山武地域(人口約25万人、病院7カ所、診療所90カ所)にある。千葉県のなかでも、九十九里沿岸部は人口10万人あたりの医師数は約90人であり、医療過疎といっても過言ではない。また、この地域には、公的病院である国保成東病院(350床、町立大網病院(100床)、および東金病院があり、医師研修義務化前の03年には、3つの公的病院に常勤の内科医合計28人が在籍していた。この公的病院群は地域の中核病院であるが、研修義務化後の医師の大量退職により、06年4月には内科医合計8人と、ピーク時の3分の1以下となった。03年に内科医11人(病院全体の常勤医21人)が在籍

## 医療連携による地域医療の再構築

このように病院勤務医が不足し、地

人で、インスリン治療患者を管理している診療所は、90カ所中わずかに1カ所であり、患者数8人であった。当時、多くのインスリン患者は、東金病院(400人)や国保成東病院(200人)等で管理されていた。22回目の糖尿病研修会を開催した07年4月時点で、インスリン治療患者の管理を行っている診療所は、36カ所にのぼり、山武地域内の診療所で450人のインスリン治療患者が管理されるようになった(4)。

## 循環型地域医療連携の今後

病院勤務医が不足している地域では、患者が病院とかけ離れた診療所を年1回程度循環し(循環型地域医療連携)、病院のさまざまな医療資源を地域で共有し有効活用することにより、地域ぐるみの生活習慣病、慢性腎臓病などの診療の質の大幅な向上と、医療経済の改善が期待される。当地域の循環型地域医療連携システムに登録された生活習慣病患者の総数は、平成19年3月に1300人余りとなった。

今後は、医療費に及ぼす影響や合併症などの臨床上的アウトカム評価など、

本システムの評価を順次行っていく予定である。この山武地域での地域医療連携の成果をもとに、千葉県では、平成20年度の保健医療計画のなかで、循環型地域医療連携システムの構築を推進していくことを決定している(7)。

下記のように地域医療に関するWebサイトを立ち上げたので、ご覧ください。

- 【参考文献】
- (1) 古垣齊拓ら「医師不足が深刻化する地域における新たな取り組み 全国自治体病院協議会発表資料」
- (2) 山武郡医師会「山武郡医師会から再生へ」
- (3) 山武郡医師会「わかしおネットワーク」
- (4) 山武郡医師会「わかしおネットワーク」
- (5) 山武郡医師会「わかしおネットワーク」
- (6) 山武郡医師会「わかしおネットワーク」
- (7) 千葉県「わかしおネットワーク」

【古垣齊拓】(るがき なるひろ) 1972年生まれ。千葉県立東金大学医学部卒業。鹿兒島県立病院で初期研修を行い、その後4年間にわたり鹿兒島県立大高で臨床医に従事。06年4月、千葉医師生活協同会常勤理事・南大原診療所所長。07年4月より千葉県立東金病院地域医療連携室室長。

連絡先: niurugaki@hotmail.com URL: http://www.furugaki.net/



鹿兒島県 奄美大島

